



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
3/13 (月)	+ 600	+ 1,600	+ 2,200	国庫短期証券 発行・償還 (3M)	国債補充供給 + 65,000	国債買入 + 800 CP等買入 + 4,000	中：全国人民代表大会閉幕
3/14 (火)	トン	▲ 5,000	▲ 5,000	源泉税揚げ			米：CPI (2月)
3/15 (水)	トン	▲ 26,000	▲ 26,000	国債発行 (5年) 個人向け国債発行・償還			日：日銀金融政策決定会合議事要旨 (1月17日・18日分) 米：PPI (2月)
3/16 (木)	トン	+ 2,000	+ 2,000				日：鉱工業生産 (1月) 米：新規失業保険申請件数 (3月11日終了週) 欧：ECB政策金利発表、総裁記者会見
3/17 (金)	▲ 1,000	▲ 6,000	▲ 7,000	国債発行 (20年)	貸出増加支援 ▲37700		欧：ユーロ圏CPI (2月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初518兆5,000億円から始まった。その後、国債買入れオペ等を主因として増加し、週末となる10日には521兆4,500億円 (速報) となり越えた。

無担保コールON物は週初、▲0.011%からスタートした。週半ばには大手行の調達ニーズ減退を主因に出合水準が低下し、10日には▲0.029%となった。

ターム物は、オファーサイドの放出ニーズが限定的であり、閑散としていた。

3月9日に公表された3月積み期の基準比率は前積み期対比+7.0%の68.0%となった。

3月10日の日銀政策決定会合にて日本銀行は政策の現状維持を決定した。

来週の予定は、国内では、鉱工業生産の発表 (16日) などがあり、海外では米CPIの発表やECB政策金利発表 (16日) などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.020 ~ 0.020
2M	0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レボ>

足許GC取引は週初▲0.105%の出合いから始まり、週を通して▲0.105%~▲0.09%のレンジで推移した。日銀の金融政策決定会合2日目となる10日の取引でも水準に大きな変化は見られなかった。SC取引は2年437~444回債、5年146~156回債、10年350~369回債、20年179~183回債、30年65~77回債、40年13~15回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.01

<CP>

今週の入札発行総額は約4,800億円で、週間償還額 (約4,900億円) と若干減少した。発行市場は、鉄鋼や石油製品等で大型案件が見られたものの、案件自体が少なく、落ち着いたマーケットとなった。発行残高は先週末の26兆6,853億円から9日時点で26兆9,017億円と若干増加した。発行レートは0%から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。一方で、発行残高が積みあがっている銘柄や3月末を超える発行等を中心にややレートの上昇も見られた。8日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート0.003% (前回0.003%)、平均落札レート0.013% (前回0.015%) と平均落札レートが前回比で低下した。

来週の週間償還額は、約9,400億円となっている。発行市場は、引き続き、決算期末の有利子負債圧縮のため、期日での再発行が少なく、償還が増えると思込まれる。発行レートは、発行期間や発行残高等によりやや幅の広いレンジ圏での出合いを予想する。

<TDB>

3月8日の6M (1143回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1458% (前回債▲0.1148%)、平均落札利回り▲0.1596% (前回債▲0.1330%) となった。

3月9日の3M (1144回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1619% (前回債▲0.1842%)、平均落札利回り▲0.1980% (前回債▲0.1846%) となった。

来週は3月16日に1Y、17日に3Mの入札が予定されている。